

大学・地域共創プラットフォーム香川
大学コンソーシアム香川

中長期計画（2019年度～2023年度）

※本改訂は、2022（令和4）年3月28日に「大学コンソーシアム香川」及び「COC+NEXTかがわ」を統合し、「大学・地域共創プラットフォーム香川」となったことから、「大学コンソーシアム香川 中長期計画（2019～2023）」を引き継ぎ、修正を行うものである。

2019年8月28日 策定
（令和4年7月29日修正）

大学・地域共創プラットフォーム香川 中長期計画 目次

設立目的及び経緯	・ ・ 1
1 高等教育における現状および課題	・ ・ 2
2 高等教育におけるビジョン・目標	・ ・ 5
3 連携体制	・ ・ 7
4 学術分野マップ（学部・学科）	・ ・ 8
5 中長期計画ロードマップ（2019 年度～2023 年度）	・ ・ 9

設立目的及び経緯

（設立目的）

大学・地域共創プラットフォーム香川（以下「プラットフォーム香川」という）は、香川県内の大学、短期大学及び高等専門学校（以下「県内大学等」という。）を基点に、地域の各主体が知見を共有し、連携してこれからの地域を支える観点から、産業界、行政等を加えた産学官のネットワークを形成し、地域社会・地域経済を支える人材の育成・定着及びその人材が活躍する場の形成に向けた議論と実践による共創を通じて、地域社会の発展に寄与することを目的に、２０２２年３月２８日に設置しました。

新たに設立した「プラットフォーム香川」は県内大学等９組織をはじめ、香川県と県内８市９町の全ての自治体、そして各経済団体からは８団体に参画いただき、県内を網羅した文字どおり「オール香川」という、これまでにない大きな枠組みの中でそれぞれが連携・共創し、大学や産業界、地方自治体が持つ知見の活用による様々な地域課題への対応を行います。

（設立経緯）

我が国は、工業化社会、情報化社会と右肩上がりの拡大路線で進んできましたが、これからの日本人は時間そのものが大切な価値となり、持続可能性や幸福への感心が高まると予想されています。他のどの先進諸国にも先駆けて急速に進行する人口減少と高齢化社会の中で、日本が確実な歩み続けるためには、地方に持続可能で文化的に豊かな空間を構築する必要が高まっています。

我が国社会のこのような大きな転換期を迎え、地域が今こそ結束して立ち上がらねばならない時に、地域のために大学など高等教育機関が貢献すると共に、地域も大学群と協働して取組みを進めていく、産官学共創の新しいプラットフォームの形成が求められていました。

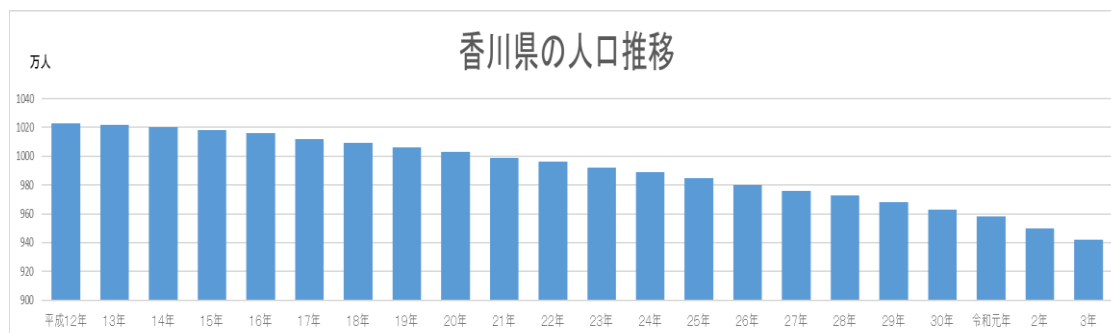
このため、「プラットフォーム香川」の前身である「大学コンソーシアム香川（２０１５年９月～）」及び「COC⁺NEXSTかがわ（２０２１年４月～）」を統合し、県内進学及び地域定着に係る事業の実績を踏まえ承継・強化するとともに、プラットフォームの主要課題である地域活性に係る県内大学と連携した地域づくり策定のための事業を実施することとしました。

1 高等教育における現状および課題

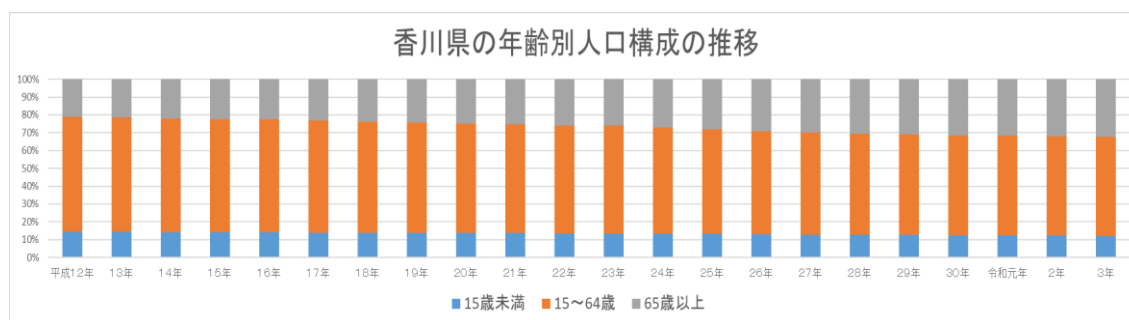
(1) 現状

- 本県の人口は、平成 11 年の約 103 万人をピークに減少に転じ、平成 30 年の人口は約 96 万人と、平成 12 年以来229 年連続の減少となっており、少子高齢化も進行している。 【図表 1、2】
- 県内には大学 5 校、短期大学 2 校、高等専門学校 1 校があるが、大学進学者の多くが県外に進学し、20 歳代の人口割合が全国平均を大きく下回っている。 【図表 3、4】
- 県内出身者が県内大学に進学すれば、約 8 割の若者が県内に就職している。 【図表 5】
- こうした中、香川県においても平成 28 年度からの新たな香川づくりの指針として、「新・せとうち田園都市創造計画（2016 度～2020 年度）」を策定し、人口減少の克服や地域活力の向上につながる効果的な施策に重点的に取り組んでいる。特に、魅力ある大学づくりのために、県内大学等の充実強化および県内大学等との連携強化について具体的な取組を行っている。
- さらに、これまでの取組みの方向性を引き継ぎながら、デジタル社会の推進などの新しい取組みにもチャレンジし、その歩みを確実なものとするため、令和 3（2021）年度から 5 年間の新たな香川づくりの指針として、「『みんなでつくるせとうち田園都市・香川』実現計画」を策定した。この中で、県内大学等と地域との連携を深めることにより、県内での修学や就業の促進を図るための県内大学等の魅力づくりを進め、若者の県内定着に努めている。

【図表 1】



【図表 2】



【図表 3】

香川県内の大学・短大への進学者数（流入元は香川県）

入学年月	大 学		短 大	
	実人数（人）	割合（％）	実人数（人）	割合（％）
令和 3 年 4 月	8 3 2	1 7 . 2	3 2 2	7 2 . 2
令和 2 年 4 月	8 2 7	1 6 . 8	3 2 2	6 6 . 1
平成 31 年 4 月	8 6 1	1 7 . 7	3 1 6	6 7 . 8
平成 30 年 4 月	8 3 7	1 7 . 5	3 6 2	7 0 . 0
平成 29 年 4 月	8 4 5	1 7 . 9	3 4 5	6 9 . 3
平成 28 年 4 月	7 8 5	1 7 . 6	3 0 2	6 3 . 4
平成 27 年 4 月	7 8 4	1 7 . 7	3 3 8	6 7 . 5
平成 26 年 4 月	7 5 2	1 6 . 7	3 3 3	6 3 . 8

【図表 4】

香川県内の 20 歳代人口（毎年 10 月 1 日現在・単位千人）

	総 数	20～29 歳	割合（％）	全国平均	全国順位
令和 3 年	9 4 2	7 9	8 . 3 9	1 0 . 0 7	2 9 位
令和 2 年	9 5 0	8 1	8 . 5 3	1 0 . 0 7	2 8 位
令和 元年	9 5 6	8 0	8 . 3 7	1 0 . 0 1	2 9 位
平成 30 年	9 6 2	8 0	8 . 3 2	9 . 9 3	2 9 位
平成 29 年	9 6 7	7 9	8 . 1 7	9 . 8 8	3 3 位
平成 28 年	9 7 2	8 0	8 . 2 3	9 . 8 8	3 3 位
平成 27 年	9 7 6	8 2	8 . 4 0	9 . 9 3	3 3 位
平成 26 年	9 8 1	8 4	8 . 5 6	1 0 . 1 4	3 2 位

【図表 5】

香川県内の大学生の就職先

卒業年月	県内就職者	うち県内出身者	うち県外出身者
令和 3 年 3 月	6 8 1 人 4 3 . 3 %	5 3 0 人 8 0 . 4 %	1 5 1 人 1 6 . 5 %
令和 2 年 3 月	6 6 8 人 4 0 . 5 %	4 8 5 人 7 7 . 4 %	1 8 3 人 1 7 . 9 %
平成 31 年 3 月	6 4 9 人 4 0 . 6 %	4 7 5 人 7 6 . 7 %	1 7 4 人 1 7 . 8 %
平成 30 年 3 月	6 5 5 人 4 2 . 3 %	4 7 3 人 8 1 . 0 %	1 8 2 人 1 8 . 9 %
平成 29 年 3 月	7 0 5 人 4 5 . 3 %	4 9 9 人 8 2 . 3 %	2 0 6 人 2 1 . 6 %
平成 28 年 3 月	6 4 6 人 4 2 . 8 %	4 4 2 人 7 9 . 4 %	2 0 4 人 2 1 . 4 %
平成 27 年 3 月	6 6 4 人 4 3 . 9 %	4 6 7 人 7 8 . 9 %	1 9 7 人 2 1 . 4 %
平成 26 年 3 月	6 6 4 人 4 6 . 0 %	4 8 6 人 8 3 . 9 %	1 7 8 人 2 0 . 6 %

【「みんなでつくる せとうち田園都市・香川」 (2021 年度～2025 年度)】(抜粋)

第6章 施策体系(施策の総合的展開)

基本目標 せとうち田園都市の確かな創造

基本方針3 誰もが輝く香川

【分野21】 魅力ある大学づくり

(施策 67) 県内大学等の充実強化取組みの方向

取組みの方向

1 若者から選ばれる「魅力ある大学づくり」に向けた支援

- 新型コロナウイルス感染拡大を契機とした大学を取り巻く環境の変化や地域のニーズを的確に捉えながら、県内大学等の強みを生かした魅力づくりを支援するとともに、県内大学等が連携して取り組むことが効果的な広報活動や地域連携活動を促進します。
- 県内高校生の県内大学や私立専修学校等に対する認知度を向上させるため、県内大学等と県内高校が連携した取組みを進めます。
- 中長期的な視点に立つとともに地域のニーズを反映した県内大学等の将来構想策定を支援します。
- 人口減少対策及び地域経済に貢献する職業人材を育成する観点から、大学や私立専修学校等における地元企業等との連携による実践的な職業教育の質の向上に向けた取組みを支援します。
- 県外の大学等が県内で教育活動を展開する際の、各種研究施設やセミナーハウスなどの場所の提供も含めた支援にも取り組み、大学や私立専修学校も含めたさまざまな高等教育機関の充実について、幅広くその可能性を調査・検討します。
- 県立保健医療大学では、看護師基礎教育を充実し、地域の将来の看護を担う中核的な看護職員の育成をめざします。また、同大学院に保健師課程、助産師課程を設置し、より高度で専門的な学術理論や質の高い実践能力を修得した人材の育成をめざします。

【分野21】 魅力ある大学づくり

(施策 68) 県内大学等との連携強化

取組みの方向

1 県内大学等との連携強化

- 新型コロナウイルス感染拡大を契機とした大学を取り巻く環境の変化の中、地域の課題やニーズを捉え直したうえで、県内大学等や産業界、市町、教育機関等と議論を進め、総合的かつ効果的な対策に取り組めます。
- 県内大学等の持つ資源を有効に活用することにより、地域課題の解決に役立てるとともに、地域貢献により県内大学等の魅力を高めるため、県内大学等との連携を強化します。
- 県内大学等と連携し、県内企業の経営者等を講師とした講義や県内企業の見学会などを通じて、県内企業等の魅力を発信するとともに、県内大学の就職担当者との連絡会を通じ、インターンシップを含む学生の就職状況等を把握し、県内就職に向けた連携を図ります。
- 県内高校生の県内大学等に対する認知度の向上を目的として、県内大学等と県内高校が連携した取組みを進め、県内大学等との連携を強化します。

○地域における多様な人材の育成・確保へのニーズに対応するため、県内大学等や産業界、市町、教育機関等との横断的な議論による課題認識の共有を促すとともに、関係者相互の連携の下、県内大学等における社会人を含めた幅広い年齢層を対象に地域のリカレント教育を推進し、地域を担う実践的な専門人材の育成・確保に努めます。

(2) 課題

- 若者の県外流出に歯止めをかける必要がある。
- 地域のニーズを踏まえた高等教育の質を高める必要がある。
 - ・自治体からは、人口減少対策および地域経済に貢献する職業人材を育成することが求められている。そのためには、実践的な職業教育の質の向上を図ることなどが必要である。
 - ・初等中等教育機関からは、県内大学等に進学しても高校生の将来の夢を叶えられる魅力ある大学づくりが求められている。そのためには、県内大学等が持つ特長を十分に発信して認知度を高めるとともに、高校生の将来の夢実現や職業選択に繋がるような高等教育に取り組むことなどが必要である。
 - ・産業界からは、県内企業に就職し、技術や伝統を継承する意欲を持った人材の育成が求められている。そのためには、県内企業のニーズを把握するとともに実践的な職業教育の質の向上を図ることが必要である。
- 大学等がこれまで以上に地域貢献活動を行い、大学等の魅力を高め、将来的に学生数の増加につながるよう、大学等と地域が連携を強化する必要がある。
 - ・自治体からは、県内大学等の持つ資源を有効活用することや雇用創出・若者定着に資する取組みを求められている。そのためには、自治体が開催する行事への参加や地域の課題解決に繋がる知的財産の提供などが必要である。
 - ・初等中等教育機関からは、児童・生徒への知識・技術の習得に対する支援を求められている。そのためには、出前授業や公開講座等を通じて支援することが必要である。
 - ・産業界からは、学生の県内就職に向けた取組みや専門的な知識・技術分野の発展における連携を求められている。そのためには、企業の魅力発信および求人に関する連携や企業の課題解決に繋がる知的財産の提供などが必要である。

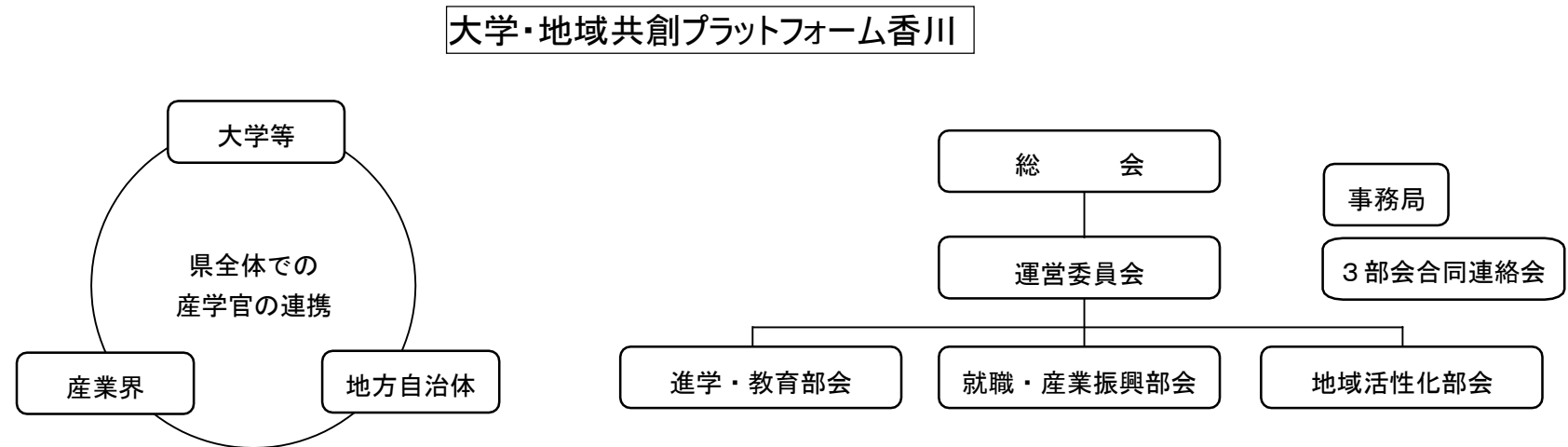
2 高等教育におけるビジョン・目標

「大学・地域共創プラットフォーム香川」の役割を、大学等の質の向上・魅力化に資する組織にステップアップする。

- (1)自治体、産業界、初等中等教育機関等との連携を強化することで、大学等の持つ資源を有効に活用し、地域の課題解決に資する。
 - 出前講座等の講座名や内容を年度初めに情報公開し、活用について積極的に働きかけ、150件の開催をめざす。

- 合同進学説明会の実施形態や内容を充実させ、7校での開催をめざす。
 - 公開授業参観日について、年1～2回の開催をめざす。
 - 公開講座について、内容の充実を図り年1回の共同開催をめざす。
 - 県内自治体が企画・開催する行事への積極的参加・支援を行えるよう、自治体に対して毎年継続的に働きかける。
 - 大学発香川県ガイド本を作成し、大学等の知的財産を活用して、香川県の魅力を伝える。
 - 合同企業説明会などキャリア支援の在り方や内容を検討し、県や経済団体と連携して就職を支援する。近年減少傾向にある学生の参加者数を増加させることをめざす。
- (2) 県内大学等の連携をさらに深めた取組みを行うことで、大学等の質の向上・魅力化を推進する。
- 単位互換の取組みを充実させる。学生のニーズに合った講座内容を検討し、受講者20人をめざす。
 - FD・SD活動に共同で取組み、年5回の開催をめざす。
 - リスクマネジメントに共同で取組み、年2回の開催をめざす。
 - 国際交流活動に共同で取組み、年2回の開催をめざす。
- (3) 効果的・効率的な広報活動により、大学等の取組に対する県民の理解を深め、県内大学等への進学率を増やし、若者の県内定着に繋げる。
- 自県大学進学者の割合を、17.5%(2018年度)から21.0%(2023年度)への引き上げをめざす。
 - 県内大学卒業生の県内就職率を、42.3%(2017年度)から52.0%(2023年度)への引き上げをめざす。

3 連携体制



【構成員】

●大学等

香川大学
香川県立保健医療大学
四国学院大学
徳島文理大学
高松大学
香川短期大学
高松短期大学
せとうち観光専門職短期大学
香川高等専門学校

●経済団体等

香川県商工会議所連合会
香川県商工会連合会
香川県中小企業団体中央会
香川経済同友会
香川県中小企業家同友会
香川県農業協同組合中央会
香川県銀行協会

●行政機関

香川県
高松市
丸亀市
坂出市
善通寺市
観音寺市
さぬき市
東かがわ市
三豊市

土庄町
小豆島町
三木町
直島町
宇多津町
綾川町
琴平町
多度津町
まんのう町

4 学術分野マップ（学部・学科）

令和5年4月更新

	人文科学系	社会科学系	工学系	農学系	保健系	家政系	教育・芸術系	その他（秘書関係）
香川県立 保健医療大学					保健医療学部 看護学科 臨床検査学科			
香川大学		法学部 法学科 経済学部 経済学科	創造工学部 創造工学科	農学部 応用生物科学科	医学部 医学科 看護学科 臨床心理学科		教育学部 学校教育教員養成課程	
四国学院大学	文学部 人文学科	社会福祉学部 社会福祉学科 社会学部 カルチュラル・ マネジメント学科					文学部 人文学科 社会学部 カルチュラル・ マネジメント学科	
高松大学		経営学部 経営学科					発達科学部 子ども発達学科	
徳島文理大学学 香川キャンパス ※印は徳島キャン パス	文学部 文化財学科 日本文学科 英語英米文化学科	総合政策学部※ 総合政策学科 短期大学部※ 商科 言語コミュニケー ション学科	理工学部 ナノ物質工学科 機械創造工学科 電子情報工学科 人間生活学部※ メディアデザイン学科 建築デザイン学科		香川薬学部 薬学科 薬学部※ 薬学科 保健福祉学部 診療放射線学科 臨床工学科 口腔保健学科※ 理学療法学科※ 看護学科※ 人間福祉学科※	人間生活学部 食物栄養学科 人間生活学科 短期大学部※ 生活科学科	音楽学部※ 音楽学科 人間生活学部※ 児童学科 心理学科 短期大学部※ 保育科 音楽科	
香川短期大学		経営情報科				生活文化学科 食物栄養専攻	子ども学科第Ⅰ部 子ども学科第Ⅲ部 経営情報科	
高松短期大学							保育学科	秘書科 ※2024年4月、ビ ジネスデザイン学 科に名称変更
せとうち観光 専門職短期大学		観光振興学科						
香川高等専門学校			本科課程（5年） 機械工学科 電気情報工学科 機械電子工学科 建設環境工学科 通信ネットワーク工学科 電子システム工学科 情報工学科 専攻科課程（2年） 創造工学専攻 電子情報通信工学専攻					

5 中長期計画ロードマップ（2019 年度～2023 年度）

（旧大学コンソーシアム香川資料）

課 題	取組内容	達成目標・指標	2018 実績	2019	2020	2021	2022	2023
初等中等教育 機関との連携	出前講座等	出前講座等の講座名や内容を年度初めに情報公開し、活用について積極的に働きかける。 2023年度に150件をめざす。	122件	実施 130件	135件	140件	145件	150件 検証・改善
	合同進学説明会	共同で高校に出向いて進学説明会を実施する。 2023年度に7校での実施をめざす。	3校	実施・推進 4校	4校	5校	6校	検証・改善 7校
	公開授業参観日	中・高校生等の知的好奇心醸成のため、公開授業参観日を実施する。2023年度に2回(土・日曜日)をめざす。	—	検討・調整	実施 1回	1回	2回	2回 検証・改善
地域の文化・芸術・教育等の振興	公開講座	生涯学習の観点から、大学等の知的財産を地域の人々に提供する。 年 1 回共同開催し、内容の充実も図る。	個別開催合計 152件	内容の検討	実施 1回	1回	1回	1回 検証・改善
	自治体への情報提供	県内自治体が企画・開催する行事への積極的参加・支援を行う。自治体に対して毎年継続的に働きかける。	1 回 (文書送付等)	実施				検証・改善
	大学発香川県ガイドの作成	大学等の知的財産を活用して、香川県の魅力を伝える。 1校当たり2～3件の執筆依頼、約200ページのガイド本を作成する。	—	内容の検討	作成	発刊		検証
産業界との連携	キャリア支援	県や経済団体と連携して、就職を支援する。 年2～3回開催する。 学生の参加者数を増やす。	かがわーくフェア 3回 536人	かがわーくフェア 検討・調整5 50人	実施 560人	570人	580人	590人 検証・改善

(旧大学コンソーシアム香川資料)

課 題	取組内容	達成目標・指標	2018 実績	2019	2020	2021	2022	2023
大学等の連携強化	単位互換	学生のニーズに合った科目を開講し、受講人数を増やす。 2023年度に講座数750、受講者20人をめざす。	560講座 3人	内容の検討 707講座 4人	実施 			検証・改善 750講座 20人
	FD・SD活動	FD・SD活動を共同開催する。2023年度に共同開催5回、受講者140人をめざす。	個別開催合計 43回 1,588人	内容の検討	実施  2回50人	3回 80人	4回10人	検証・改善 5回 140人
	リスクマネジメントへの取組	リスクマネジメントへの取組みを検討する。 2020年度以降、研究会・協議会等の開催2回をめざす。	個別開催合計 6回	内容の検討	実施  2回	2回	2回	検証・改善 2回
	国際交流	国際交流活動を共同開催する。 2023年度に共同開催3回、参加者70人をめざす。	個別開催合計 25回 1,810人	内容の検討	実施  1回20人	1回 30人	1回 40人	検証・改善 2回 70人
	その他の広報活動	・「大学コンソーシアム香川」や大学等のホームページ、メディア等を活用して広報活動を積極的に行う。 ・オープンキャンパスの共同広告を年1回掲載する。 ・パンフレットスタンド設置を推進する。 ・「大学コンソーシアム香川キャンパスガイド」を作成する。 ・「大学コンソーシアム香川」のホームページをリニューアルし内容を充実する。 ・広報活動を通じて、県内大学等への進学増加や若者の県内定着に繋げる。	共同広告1回 自県大学進学者の割合 17.5% 県内大学卒業生の県内就職率 42.3%	実施・推進  キャンパスガイド発刊				検証・改善
					自県大学進学者の割合 目標21% 県内大学卒業生の県内就職率 目標52%			